

第5次食育推進基本計画 策定に向けた意見

令和7年9月22日

令和7年度第3回食育推進評価専門委員会

社会福祉法人全国社会福祉協議会

全国保育士会

笠置 英恵



全国保育士会について

成り立ち

- ◆ 1956(昭和31年)、「子どもたちの真の幸福を守るために保母は手をつなぎ、たちあがろう!」という呼びかけに賛同した人たちによって創設
 - 全社協保母会 → 全国保母会 → 全国保育士会 と名称変更
- ◆ 現在18万2千人余りを会員とし、わが国最大の保育士・保育教諭等の組織

全国保育士会の特徴

- ◆ 「全国保育士会倫理綱領」の理念をもとに、「子どもの育ちを支え、保護者の子育てを支え、子どもと子育てにやさしい社会をつくる」ことを目的に事業をすすめている。
- ◆ 専門職としての誇りと責任をもち、会員が一体となって保育の質および自らの専門性の向上をめざしている。
- ◆ 全国的ネットワークにより、幅広い視野をもって各種事業に取り組んでいる。

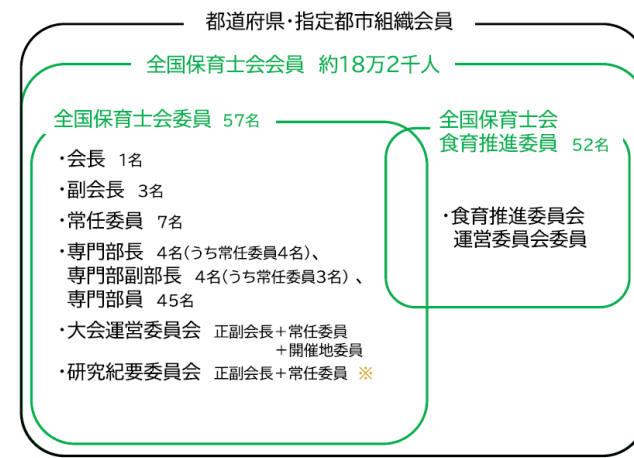
全国保育士会の組織

(会員)

- 全国保育士会は約18万2千人の会員で構成(令和7年2月時点)

(組織運営)

- 各都道府県・指定都市組織の代表者(委員)のなかから選出された、会長、副会長、常任委員が執行部となり、全国保育士会の取り組みを運営(事務局)
- 社会福祉法人全国社会福祉協議会児童福祉部に事務局を設置



人数は令和7年2月時点、※は外部の学識者も参画



全国保育士会の食育への取り組み

《乳幼児期における食育の重要性》

乳幼児期の食事は、
子どもたちが健康でいきいきとした生活
を送るための基礎となるものであり、その
後の心身の成長にも大きな影響を与えて
るものである。



保育所・認定こども園等(以下、保育所等という)においては、食育を子どもの生活の基盤とした「保育の一環」としてとらえ、さまざまな取り組みを行っている。保育所等での食育には、栽培や収穫等のイベントだけではなく、ひらがなの献立表、ままごと遊び、午前中の身体を使った遊び、配膳の準備のお手伝いなど、保育所等で行われている毎日の保育すべてが食育につながっている。

また、保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働を通して、子どもの活動としての食育だけではなく、地域における保育所等の役割としての位置づけをしている。

全国保育士会ではこうした保育所等での「保育の一環としての食育」がさらに推進されるよう取り組んでいる。

第5次食育推進基本計画に向けた意見

1. 家庭に向けた食育の推進

近年では、共働き世帯の増加などに伴い家庭の生活形態が多様化し、家庭内での共食の機会の減少や朝食の欠食といった課題が生じている。

また、保護者の食育に対する関心の低さも、重要な課題の一つとされている。

《現場で働く保育士等の声》

- 家庭の食生活に関し、保護者が問題と認識していない場合がある
- 家庭環境や忙しさにより食生活の改善が難しく、口頭の支援だけでは限界がある
- 子どもの朝食について、保護者の長時間労働の影響により、共食や食事にかかる時間があまりとれていないことから、簡易な食事(菓子パンなど)が多いように見受けられる



子どもの「食を営む力」を培うには、まず、保護者の「食」への関心を高めることが重要である。
保護者の「食」への関心を高めることで、家庭内での「食」への意識が変わり、共食の機会が増え、朝食をとる子どもも増えるなど日々の食生活の改善につながる。
このように、子どもたちの生きる力の基礎を育む乳幼児期の食育の推進をしていくために、保護者が「食」への関心を高められるよう働きかけをしていただきたい。

第5次食育推進基本計画などに向けた意見

2. 学校、保育所等における食育の推進

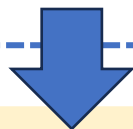
全国保育士会では、生きる力の基礎を育む食育の重要性と、子どもの心身ともに豊かな育ちを可能とする「自園調理の優位性」の重要性を発信している。

「自園調理」とは、保育に携わるすべての職員が直接子どもと関わることで、一人ひとりの特性や発達、健康状態に応じた食事の提供を行うことができ、子どもにとっても調理中の音や香りなど、五感を刺激する体験を通して、調理という実体験が生きる力のもとになり、感謝の芽生えにもつながる。



《現場で働く保育士等の声》

- 給食の時間が近づくと「いいにおい!今日は何かな?」と楽しみにする様子が見られる。また、自園調理から、安心・安全であると同時に、調理員や栄養士と楽しく関わっている様子がある
- 自園で収穫した野菜の匂いや、感触を味わったり、皮をむいたり・切ったりと、遊びに取り入れることで、興味関心を深めている。また、野菜の旬を知ることにもつながっている



一方で、現在、国において平成10年より構造改革特区において容認された「公立保育所における3歳未満児への給食外部搬入」が全国的に展開することへの検討がなされており、令和7年度までに改めて評価をすることとしている。

しかし、全国保育士会では、「子ども一人ひとりの発達や健康状態等に合った食事を提供することができる」「食育活動を推進できる」という観点から、自園調理にこだわるべきであると考えている。

